

藤野健司

彼方からの光

かなしいことがあると
夜空を見上げる
空一面の星

何年 何十年 何万年 かけて
光が 目に 飛び込む
それは たまたまなのか いや

生きているから その光を 受けとることができる
その限りのない偶然に
茫然とする